

ソーシャル PM ニュース 2015年8月

PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

ソーシャル・プロジェクト（社会課題の解決を目的とするプロジェクト）のマネジメントについて、研究活動の状況、イベント、人材募集などについてお伝えします。

2015年8月 もくじ

A. 研究会活動の状況

A1 「ソーシャル PM 実践ワークショップ」開発計画の概要

A2 ソーシャル PM 一問一答

B. ソーシャル PM コミュニティ & イベント

B1 Facebook 公開グループ『ソーシャル PM コミュニティ』にお友達をお誘いください

B2 一般社団法人 情報支援レスキュー隊 (IT DART) の設立

C. プロマネ募集

C1 「WORK FOR 東北」プロマネ募集

C2 「サービスグラント」イベントのご案内・プロマネ募集

=====

A. 研究会活動の状況

A1 「ソーシャル PM 実践ワークショップ」開発計画の概要

人口減少、高齢化、中心市街地の衰退、生活習慣病、大規模災害への備え、復興支援・・・将来世界各国が直面するであろうソーシャルな課題に、日本は今まさに直面しています。「ソーシャル課題先進国」から「ソーシャル課題解決先進国」となり、世界の最先端に立つことが期待されています。

「そのようなソーシャルな課題解決に対して、マネジメントとして、どんな貢献ができるのか？」——ソーシャルPM研究会の仲間が、毎月、悶々と議論しているテーマです。その中から、これまでの研究会としての活動を通して、マネジメントとして関与し疑問に答えていく必要性として整理した喫緊のテーマが、以下の6点です。

- 1) 問題の本質を一挙に捉え、そこに調和と秩序をもたらす行為をデザインする必要がある。共感で多くの人々の心に訴え、行動を喚起し、社会に幸せなムーブメントを起こす。そこに、デザイン思考が適用できるのではないか？
- 2) そのデザイン思考で創出された、アイデアは、仮説であり、早期に多くの人たちと検証を行い、失敗から学びを得る必要がある。そこに、アジャイル・マネジメントができるのではないか？
- 3) 地域社会が持続的に存続するために必要な「経済的価値」と「社会的価値」をどう両立させ、多くの利害関係者（以降、ステークホルダーと呼ぶ）に説明責任を果たしていけるのか。そこに、ベネフィットマネジメントが適用できるのではないか？
- 4) 地域社会の限られた予算の中で、投資価値を最適化するには、ポートフォリオマネジメントが適用できるのではないか？
- 5) 多くのステークホルダーを特定し、主体性を引き出し、期待を管理するために、ステークホルダー・マネジメントが適用できるのではないか？
- 6) 地域社会の活動をビジネスとして、持続可能性を追求する上で、ビジネスモデルをデザインする手法が適用できるのではないか？

その具体的な解決に向けては、これまでの研究活動を通して、ソーシャル課題解決に有効であると思われるソーシャル PM 手法を多くの人に体験していただき、共に学びを得て、フィードバックを得る場を提供したいと、2015年の年初から企画検討に着手しました。

そして、2015年の12月から、本格的に、PM 研修道場“学びの場”（仮称）の運用を開始する決意をしました。そのねらいは、以下の目的を達成するため、継続的にソーシャル活動を志す人材に実践面を重視した研修コースの提供、および学びの場を提供することを提案することです。

- 1) 新たに、本研究会に参加する人たちが、現場の社会課題解決の活動に参加する際に、必要となるマネジメント知識・実践スキルを事前に提供する
 - 2) PM 研修道場“学びの場”（仮称）を通して、多くの人が集まり、「より実践的&不可欠なマネジメント手法・フレームワークとは何か？」について議論する場を提供する
- 現在、第一段階として計画している実践研修コースは、以下のとおりです。ぜひ、ご期待ください。

研修タイトル	研修の狙い	実施予定
ソーシャル・デザイン思考実践	・社会課題の本質を捉える ・独創的なアイデアを創出し、ソリューションを提示する	2015年12月
ソーシャル・ベネフィット マネジメント実践	・プログラムの立上げ時点で、ミッション／ビジョン、戦略計画、プログラム・ベネフィットの関係性を明確化する	2016年1月
ソーシャル・ステークホルダー マネジメント実践	・多様なステークホルダーの期待をどうマネジメントするか、 識別、影響力の発揮方法を理解する	2016年3月
ソーシャル・ポートフォリオ マネジメント実践	・創出したアイデア、ソリューション、実現施策の投資価値を 最適化する	2016年5月
ソーシャル・アジャイル マネジメント実践	・デザイン思考から創出したアイデアを短期間でサービス/ 成果物として構築し、社会・市場からフィードバックを得る手 法を理解する	2016年8月
ソーシャル・ビジネスモデル デザイン実践	・ソーシャルソリューションをビジネスとして成立させて持続 可能性を考慮してビジネスモデルをデザインする手法を理 解する	2016年10月

A2 ソーシャル PM 一問一答

ソーシャル PM という新しい取り組みはまだ概念も十分に確定していないので、いろいろな質問をいただきます。その中で特に広く皆さまにご理解いただきたいテーマについて連載で解説していきます。

内容について皆さまのご意見もお聞かせください。

(Q5) ソーシャル・プロジェクトではデザイン思考が万能なのですか？

(A5) デザイン思考は一つのアプローチです。ロジカル思考が可能なところではロジカル思考も使われます。

ソーシャル・プロジェクトは、企業内のプロジェクトと違って初期の段階でゴールが明確に決められていないことがあり、そのために課題を定義して論理的に仮説を立てることが難しいことがあります。そのような場合にデザイン思考が有効であることを前号で説明しました。

そこではデザイン思考を次のように記述しています。

「現場の状況や人の行動・思考を観察／体験して問題の本質を洞察し、課題を再定義して仮説／解決策を作り、プロトタイピングによる試行錯誤を繰り返して解決に導くアプローチ」
問題の本質を洞察、課題を再定義、試行錯誤の繰り返し、が特徴的なところだ。

しかし、ソーシャルな取り組みと言っても、その中にはいろいろな作業が含まれており、

中には課題認識も共有されていて成果物も合意できていることもあります。その場合は、デザイン思考のプロセスを用いずに、いわゆるロジカル思考で要件を定義して、従来型のプロジェクトマネジメントで成果物を作っていくことができます。

ロジカル思考では、課題に関連する事実を収集・分析し、複数の解決策（代替案）を作って比較評価し、最適な結論を選択します。課題が明確で関連情報が入手できれば、分析や比較評価の手法はいろいろ用意されています。

しかし、ここで得られた情報が間違っていたり、評価基準が偏っていたりすると最適な結論が得られないことがあるので注意が必要です。

デザイン思考とロジカル思考の使い分けを考えてみましょう。まず出発点として、上述したように課題が明確で成果物が決まっていればロジカル思考が進められます。ソーシャル・プロジェクトでもすでに類似のプロジェクトの実績があつて、同様の成果物を作ることが目標であれば手順ははっきりしていて効率よく進められます。逆にまだ前例がないようなケースであつたり、関係者の間で目指す方向がまちまちであつたりするときはデザイン思考の出番になります。言い換えれば課題を明確にし、ゴールないしビジョンを共有するためにデザイン思考のアプローチが適すると言えます。

次に進め方の違いですが、ロジカル思考では合意された課題を展開して細分化、具体化すれば個々の解決案が出やすくなりますので、今度は個々の解決策をまとめて成果物を作り上げていきます。その際の考慮点は論理的な整合性や MECE（モレなくダブリなく）に展開することで、そのための手法は完備されていると言えるでしょう。デザイン思考では問題の本質を捉えるために現場に入るなりして、関係者と共感を得ることから始めます。方向性がバラバラな関係者をまとめるために、身近で小さな部分のプロトタイプを作って、異論があれば修正していくという約束で合意を得ていきます。

=====

B. ソーシャル PM コミュニティ&イベント

B1 Facebook 公開グループ『ソーシャル PM コミュニティ』にお友達をお誘いください

PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会は、ソーシャル PM の認知度を高め普及させていくために、今年 6 月に Facebook 公開グループ『ソーシャル PM コミュニティ』を開設しました。

【ソーシャル PM コミュニティ】

<https://www.facebook.com/groups/1488714048013631/>

ソーシャル PM 研究会のメンバーに加え、新たにソーシャル活動家、プロジェクトマネジメントの手法を活かしてソーシャル活動に取り組もうという志がある方々、50名以上にご参加いただいております。

『ソーシャル PM コミュニティ』にご参加いただくことにより、ソーシャル PM に関わる意見交換、情報連携を交わしていただき、ソーシャル PM 研究会が主催するセミナーの要項、研究事例などに触れる機会を持つことができます。

『ソーシャル PM コミュニティ』の説明、運用規定は、上記 URL のトップページにあるグループの説明文に記載しています。ご一読いただいた上で、関心をお持ちいただきましたら、ぜひ参加リクエストをお願いします。その際、このニュースレターを見た、知人から紹介された、などとコメントしていただくと助かります。

また、社会活動家、プロジェクト・マネジャーなどの知人がいらっしゃいましたら、下記の方法で当グループの存在をシェアしていただくと幸いです。

□メールによるシェア方法

- ・『ソーシャル PM コミュニティ』の URL を付けてメールを送付

<https://www.facebook.com/groups/1488714048013631/>

- ・当ニュースをメールで転送し、『ソーシャル PM コミュニティ』をご紹介いただく

□Facebook によるシェア方法

- ・『ソーシャル PM コミュニティ』のトップ画面で、『シェア』をクリックし、自分のタイムラインにシェアする

- ・『ソーシャル PM コミュニティ』に参加し、ご投稿いただく

B2 一般社団法人情報支援レスキュー隊 (IT DART) の設立

かねてからお伝えしてきました情報支援レスキュー隊 (IT DART : IT Disaster Assistance and Response Team) が、さる 8 月 8 日に一般社団法人として設立され、設立総会が開催されました。当日は準備を重ねてきた人たちをはじめ、地方自治体関係者、大学の研究者ほか企業人など 50 人以上の方々が参加されました。

もともと、IT DART の考えは、発災後に被災地での状況や支援ニーズなどの情報を収集・把握し、それらを自治体や支援者、企業に適切に伝え、効果的な支援活動が行えるように

するために、個々の人々の IT に関する専門的なテクノロジーやプロジェクトマネジメントなどといったノウハウを活かしていこうというものです。

設立趣意書にも、こうした考えを実行するためにも「災害時に活動する有志をあらかじめ組織し、トレーニングを行い、連携体制を整え、緊急時に被災地からの情報発信・収集を最大限に可能とする取り組みを平時から進めておく必要がある」としています。

設立総会後のワークショップでは、「自治体との連携」、「活動に必要な IT システム」、「被災地で効果的かつ安全に活動するための対策」、「発災時の初動体制とその準備」といった4つのテーマで活発な意見が交わされました。時間的にも限られていましたが、多くの示唆が得られました。次はこうした内容をどう実現させていくかということで、今後の活動を注目していきたいと思います。

C. 連携団体情報・プロジェクト・マネジャー募集

ソーシャル PM 研究会が連携している団体からのプロマネ募集です。

C1 日本財団「WORK FOR 東北」(復興庁協働事業) プロマネ募集

◆お勧めの案件

[岩手県釜石市] 釜石リージョナルコーディネーター協議会 (釜援隊)

インフラ整備が進む釜石において、今後求められるのは、安心して豊かに暮らすことのできるまちづくりです。

コミュニティの形成や販路の拡大等、セクターを超えた主体的なまちづくりを進めるため、コミュニティ領域における地域コーディネーターおよび地域資源を活かした工業・商業の活性化コーディネーターを募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/140>

[岩手県大槌町] 大槌町総合政策部の業務の企画調整統括 (まちづくり)

地域活性化の企画立案、企業誘致のセールス、地域おこし活動の推進、住民主体のまちづくりのための「地域復興協議会」の企画運営を行う統括ポジションの募集を行います。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/139>

[宮城県石巻市] 大規模園芸施設 (栽培品目: トマト、パプリカ) の経営に係るマネジャ

ー（石巻市6次産業化・地産地消推進センター）

津波により甚大な被害を受けた北上地区の方々が新たに設立した農業法人が運営する大規模園芸施設ですが、経営・マーケティング・セールスの経験者が不足しています。販路開拓や運営体制の早期確立が求められるため、同業務の経験を有するマネージャー人材を募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/144>

〔福島県浪江町〕浪江町情報発信支援コーディネーター（総務課秘書係）

町民の気持ちを楽にし、復興に向けて次のステージに立つ勇気を生み出す情報を発信するため、発信メッセージの統一などの広報企画、町長秘書と連携しての情報発信（スピーチのライティングやプレス対応含む）、職員の広報スキル育成等の情報発信支援を行うコーディネーターを募集します。

<http://www.work-for-tohoku.org/list/142>

その他、全体の募集案件は以下よりご覧いただけます。

◆「WORK FOR 東北」事業について

<http://www.work-for-tohoku.org/>

「WORK FOR 東北」では、東日本大震災で被災した自治体などの人材ニーズと、復興の現場で働きたいという個人、企業の方をお繋ぎするサポートを実施しております。復興に携わる業務にご関心のある方、ぜひ一度ご検討いただければ幸いです。

お問合せ・お申し込みは以下まで

日本財団「WORK FOR 東北」事務局

東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 5F

TEL : 03-6229-5229 (9:00~18:00/土日祝除く)

E-Mail : jinzai-pf@ps.nippon-foundation.or.jp

G2 「サービスグラント」プロジェクトマネージャーポジション募集

■いくつになっても、いきいきと暮らせるまちをつくる「東京ホームタウンプロジェクト」
ご参加プロジェクト・マネージャー募集

<http://hometown.metro.tokyo.jp/>

NPO 法人サービスグラントです。『ビジネススキルや専門知識を活かしたボランティア活動』である“プロボノ”のコーディネートを通して、NPO の支援を行っています。

前回に引き続き、東京都福祉局との協働プロジェクト「東京ホームタウンプロジェクト」のご案内です。

団塊の世代が後期高齢者（75 歳以上）になる 2025 年にかけて、これから東京は急速な高齢化を迎えます。

こうした中、高齢者の見守り、認知症・介護予防、ネットワークづくりなどに取り組む身近な地域の団体を応援する、「東京ホームタウンプロジェクト」が始まります。

<http://hometown.metro.tokyo.jp/>

このプロジェクトでは、プロボノをはじめ、東京で暮らし働く多様な人びとが、自身の経験や専門性を活かして地域づくりに関わるためのプログラムを推進していきます。

支援先は東京の各地域で活動する地域団体・NPO など様々です。

地域の高齢者宅を年 3 回ボランティアで巡回する見守り活動を継続する墨田区太平一丁目では、活動のノウハウを他地域に紹介するウェブサイト制作に挑戦していきます。

http://hometown.metro.tokyo.jp/project/project_details/?id=sumida_taihei1

板橋区の「たまりば・とうしん」は、高齢者をはじめとする地域住民が集うサロン運営にプロボノチームの斬新なアイデアを取り入れて、新しい取り組みを実現したいと意気込んでいます。

http://hometown.metro.tokyo.jp/project/project_details/?id=itabashi_tamaribatoshin

■東京ホームタウンプロジェクトへご参加いただくには？

1. スキル登録

ご参加への第一歩として、皆さまのビジネススキルや専門知識について『スキル登録』をお願いしています。ご参加までの流れ、並びにスキル登録フォームは以下ページよりご確認ください。

<http://www.servicegrant.or.jp/skill/flow.php>

2. プロボノワーカー説明会ご参加

実際のプロジェクトにご参加いただくための必須条件として、皆さまには「説明会」へのご参加をお願いしています。説明会では、より詳しくサービスグラントの考え方、これま

での実績、プロジェクトの進め方、参加にあたっての留意点等をご案内させていただいており、お時間としては1時間～1時間半程度です。

《8月の説明会開催スケジュール》

8月22日（土） 10:30-12:00

8月26日（水） 19:30-21:00

▽ 説明会について詳しくは・・・

<https://www.servicegrant.or.jp/skill/orientation.php>

長期プロボノに加え、10月には短期プロボノ・1DAYチャレンジを開催！

詳細・参加登録は下記ページをご覧ください

<http://servicegrant.or.jp/event/index.php?id=161>

【お問い合わせ先】

NPO 法人サービスグラント（担当：岩渕）

03-6419-402

info@servicegrant.or.jp

=====

編集後記

今年の夏も猛烈な暑さでした。8月8日情報支援レスキュー隊の社団法人設立総会が行われました。暑い中を準備に走り回ったスタッフのみなさんの熱意に敬意を表します。これから隊員募集をして本格的な活動が始まります。ご関心をお持ちの方はぜひ参加してください。

このニューズレターは社会課題解決の志を同じくするプロジェクト・マネジャーのコミュニティ醸成のために関係団体のイベントや人材募集の情報連携をいたします。

毎月15日の発行を目標にしますので、掲載希望のニュースをお寄せください。

発行者： PMI 日本支部 ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

責任者： 研究会代表 高橋 正憲

=====